

2024 年度日本造園学会全国大会 U30 公開デザインコンペ開催報告について

2025 年 5 月 日本造園学会編集委員会

2024 年度に開催された全国大会関連記事として『ランドスケープ研究』第 88 巻第 3 号に掲載予定であった「U30 公開デザインコンペ開催報告」につきまして、下記に全文を掲載いたしますので、ご一読いただければ幸いです。

なお、同コンペの受賞作品につきましては、2024 年度日本造園学会全国大会のウェブサイトに掲載済みであることを併せてご報告申し上げます。

【掲載記事】

全国大会 U30 公開デザインコンペ開催報告

大野暁彦

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科

1. 開催概要

2024 年度の日本造園学会公開デザインコンペは、全体のテーマにあわせ『うつろう風景』と『変わらない風景』～時間軸の中での風景を考える～とした。その上で、今年は「デザイン」コンペとして、空間デザインそのものに議論が集中するようにと考えて全体を調整した。テーマは大会のテーマにしたがって抽象度の高いものであったが、図面表現を重視するように記載した。また、対象地は、各自で自由に「人と環境との関わりが時間軸の中で形成されてきた地域や場所」を設定することとし、選出した地域や場所についてどのようにその場の価値を理解し、未来に向けてどう再編集したかを、ダイアグラムなどグラフィカルな表現を通じて明確に表現するように求めた。その結果、応募案では北海道から鹿児島まで全国各地の様々な場所が提案された。対象地は畑地や果樹園、鉱山、伝統産業など 1 次・2 次産業を中心とする産業と関わる対象地を選んだ作品やダム、

水道、道路などの都市インフラを選んだ作品などがみられた。

応募資格として、例年高校生、学生のみであるところを、2025 年 3 月 31 日時点で 30 歳以下の社会人の個人またはグループとし、若手の実務者も応募できるようにした。その結果、全国から 160 の個人または団体から応募があり 96 品の提出があった。96 作品のうち、社会人のみのチームまたは個人からの応募が 17 作品、博士前期課程以上の学生を含むチームまたは個人からの応募が 45 作品、学部生だけのチームまたは個人からの応募が 28 作品、社会人と学生の混成チームからも 4 作品応募があった。またそれぞれの所属は、造園分野だけに限らず建築・土木系の学部・学科からの応募があり、社会人においてもディベロッパー、建設会社、組織設計事務所、アトリエ系設計事務所、建築設計事務所など幅広い応募があった。

応募期間は例年同様、登録期間を 2024 年 2 月 5 日（月）～4 月 19 日（金）、作品の受付を 2024 年 4 月 29 日（月）～5 月 7 日（火）、一次審査会は 2024 年 5 月 19 日（日）にオンラインで実施し、二次審査会：2024 年 6 月 14 日（金）は名古屋市立学北千種キャンパスにて対面で実施した。

賞金については、例年から大きく増額した。最優

秀賞（1点）20万円、優秀賞（2点）（5万円）、佳作（4点）賞金（1万円）、入賞（4点）賞金（5千円）、高校生奨励賞（1点）

として広報していたが、高校生応募作品に賞を与えるべき作品がもう1点あったことから、高校生奨励賞（1点）を今回特別にもうけた。

審査委員は設計実務に関わる方を中心に依頼をさせていただいた。また造園やランドスケープの分野に限定せず、幅広い観点から議論になるよう、土木分野ならびに建築分野の方にも審査委員を依頼した。

審査委員ならびに審査委員長は以下のとおりである。

審査委員長

三谷徹（東京大学大学院建築学専攻教授）

審査委員

石川初（慶應義塾大学環境情報学部教授）

板垣範彦（いきもの ランドスケープ代表）

三島由樹（株式会社folk 代表取締役）

伊藤恭行（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授）

崎谷浩一郎（株式会社イー・エー・ユー 代表取締役）

2. 教育の場としての講評

ランドスケープ分野においてデザインコンペの機会は建築分野などと比べると圧倒的に少ない。それだけに造園学会全国大会における本コンペの存在は大変重要であると考えている。特にランドスケープ教育は造園を専門とするカリキュラムだけでなく、建築や土木などのカリキュラムの中でもおこなわれており、デザイン教育の内容にも差異があることから、本コンペがランドスケープ設計教育における役割も大きいのではないかと感じている。さらに今回は応募資格を広げて、若手実務者も参加できるようにしたことで、発表の場が少ない若手実務者にとっても教育の機会になればと考えた。

教育の場として本コンペを位置付ける上では、講評のあり方が重要であると検討メンバーの中で議論があり、審査委員会の委員の方々とともに審査前より議論を行なってきた。これまでも2次審査はオープンな講評会を行なっていたが、幅広くフィードバックを行うため、1次審査での講評内容についても公開

することとした。1次審査そのものは非公開としたが、1次審査の中で委員の1名でもコメントがあったものについては、講評内容を記録し公開することとした。また2次審査においては例年通り公開とし、1作品5分の発表に加えて8分程度の質疑応答を行った。その後も数回に渡り投票を行いながら1時間以上にわたる議論をしたのちに、それぞれの賞にふさわしい作品を選定していった。

3. 交流会の開催

今年はAlternative Landscapeのみなさまにご協力をいただき、講評会後に交流会を開催した。提出された全作品の展示をした会場を準備し、Alternative Landscapeのみなさまに準備いただいた飲み物とお菓子とともに交流の場を用意した。講評会会場では消化不良であったり追加で聞きたかった点などを審査委員と応募者で議論しあうだけでなく、応募者同士や会場にきていただいた方々と応募者とも作品を前に話し合われていた。

4. 今後に向けて

今年の公開デザインコンペは、賞金の拡大、応募資格の拡大、講評会の充実、交流会の実施など新たな挑戦に取り組むことができた。会期後に実施したアンケートでも交流会をはじめ満足度が高く、いずれの内容も検証を深めつつも今後も継続されることを期待したい。